



2019年1月29日

各 位

会 社 名 クラリオン株式会社
 代 表 者 名 代表執行役 執行役社長兼CEO
 川 端 敦
 (コード番号 6796 東証第一部)

問 合 せ 先
 責任者役職名 経営戦略本部 担当本部長
 氏 名 宮 本 浩
 T E L (048)601-3700 (代表)
 当社の親会社 株式会社日立製作所
 代 表 者 名 代表執行役 執行役社長兼CEO
 東 原 敏 昭
 (コード番号 6501 東・名)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2018年4月26日に公表いたしました2019年3月期通期(2018年4月1日～2019年3月31日)の業績予想につきまして、下記の通り修正いたします。

1. 2019年3月期通期 連結業績予想値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

単位：百万円	売上収益	調整後 営業利益	税引前 当期利益	親会社株主 に帰属する 当期利益	基本1株当たり 親会社株主に帰 属する当期利益
前回発表予想(A)	165,000	3,000	2,400	1,700	30円16銭
今回発表予想(B)	150,000	2,500	0	△500	△8円87銭
増減額(B-A)	△15,000	△500	△2,400	△2,200	—
増減率(%)	△9.1	△16.7	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	183,056	7,353	4,545	2,079	36円89銭

※「調整後営業利益＝売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算しています。

(注) 当社は、2018年10月1日付けで普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、基本1株当たり親会社株主に帰属する当期利益を算定しております。

2. 修正の理由

今回の業績修正は、市場環境悪化に伴う売上高減に起因する利益の見直しによるものですが、その影響はコスト削減策により抑えられている他、一時的な要因や為替影響によるものです。売上収益については、グローバルベースでの新車販売の低迷、特に中国市場変調による民族系顧客の販売不振及び日本国内におけるバス需要低迷の継続や新規サービス事業の開始の遅れによる関連商品の販売減等により減収となる見込みです。一方で、調整後営業利益については、生産工場の再編、グローバル人員の更なる合理化、材料費低減活動の継続、製品設計見直しによる部品単価低減等の一連のコスト削減を短期間に実施することで、市場環境に則したより筋肉質なコスト構造への変革を進めました。結果として、上記減収の影響は出るものの、減益額は限定的な範囲に留まる見込みです。税引前利益、当期利益の減益は、

調整後営業利益の減益を除けば中国元、メキシコペソ等の新興国通貨安の影響や公開買付け関連費用、人員の合理化や生産工場再編に伴う構造改革費用といった一時的な要因によるものです。

3. 今後の見通し

売上高の減少については来年度以降、市場自体の回復が見込まれること、中国市場においては顧客層の拡大が進捗していること、加えて東南アジア・ブラジルでの販売活動強化及び日本国内での新規サービス事業が軌道に乗る見込みであることから、一過性の要因と考えております。また、調整後営業利益については、上記一連のコスト削減により損益分岐点の引き下げが達成できたため、来年度以降の売上高回復局面においては、更なる利益の拡大が期待できます。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上